

A medical English language course for Japanese radiological technologists

スーズィ, コーナ

<https://hdl.handle.net/2324/4060020>

出版情報 : Kyushu University, 2019, 博士 (保健学), 課程博士

バージョン :

権利関係 : Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (2)

氏 名	Suzy CONNOR			
論 文 名	A medical English language course for Japanese radiological technologists (日本の診療放射線技師のための医学英語コース)			
論文調査委員	主 査	九州大学	教授	藪内 英剛
	副 査	九州大学	教授	佐々木 雅之
	副 査	九州大学	教授	杜下 淳次

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本邦では、海外からの旅行者や短期滞在・就労ビザ等による外国人労働者の増加に伴い、医療機関においても、患者との英語でのコミュニケーションが医療従事者に求められる機会が増えてきている。しかしながら、診療放射線技師のために書かれた医療英会話の教科書で市販されているものはほとんどない。日本の診療放射線技師は、医療被曝に関する患者や市民からの相談、CT, MRI等の画像検査や放射線治療における患者への説明、誘導など、様々な局面で、外国人患者に対して英語でのコミュニケーション能力が求められる。そこで、本研究では日本人診療放射線技師のための医学英語コースを、九州大学大学院保健学部門において大学院生に対して開講し、英語コミュニケーション能力の向上に有効か否かを解析した。

教材として 2016 年の日本診療放射線技師国家試験問題から診療に必要な専門用語 227 語を抽出し、臨床経験 20 年以上の診療放射線技師の監修を受けた後に、iBook Author を用いて電子教科書を作成した。受講者は 11 名の日本人大学院生（九州大学大学院医学系学府保健学専攻医用量子線科学分野・修士課程 1 年生）で、90 分間の講義を週 1 回、10 週連続で受講した。評価項目は上記 227 語を身体部位、院内部署、感情、身体的問題、放射線領域、症候、の各分野で、語彙力（20 点満点）、発音力（25 点満点）をそれぞれ受講前、受講直後に評価した。語彙力、発音力とも全ての分野において、受講前後で統計学的に有意な向上が見られた。語彙力は全分野平均 6.9 点から 15.8 点へ、発音力は全分野平均 13.5 点から 22.4 点へと有意に向上していた。特に、受講前のスコアが低かった症候の分野で、語彙力の正答率が平均 15%から 68%と著明な改善を認めた。

本研究は、診療放射線技師に求められる医療英会話の教材を専門家の監修を受けて詳細に作成し、その教育効果を確認できた研究であり、汎用性のある教材となっており実臨床にも応用できる大変重要な研究と考えられる。審査において調査委員が行った質問にも適切な解答が得られており、調査委員の合議の結果、本論文は博士(保健学)の学位に値するものと認める。